

遺物からみた「禍」

岡山市埋蔵文化財センター 田部巴菜

はじめに

日本において戦いの痕跡は弥生時代から見られるようになります。各種武器、防御施設をそなえた環濠集落や高地性集落、矢じりが刺さったままの人骨などが最たる例です。今回は武器から、戦いが列島内でどのように展開したのかを考えます。

I. 考古学からみた「戦い」

戦争：軍隊と軍隊とが武力を行使して争うこと。特に、国家間の全面的な争い。

『明鏡国語辞典 第二版』

戦いの考古学的指標

- (1) 守りの村 (2) 人を殺すための専用の道具＝武器の存在、(3) 殺傷された人の遺体、(4) 武器をそえた墓、(5) 祭りの道具 (= 武力崇拝) になった武器、(6) 戦いの場面を表した造形品

『倭國亂る』

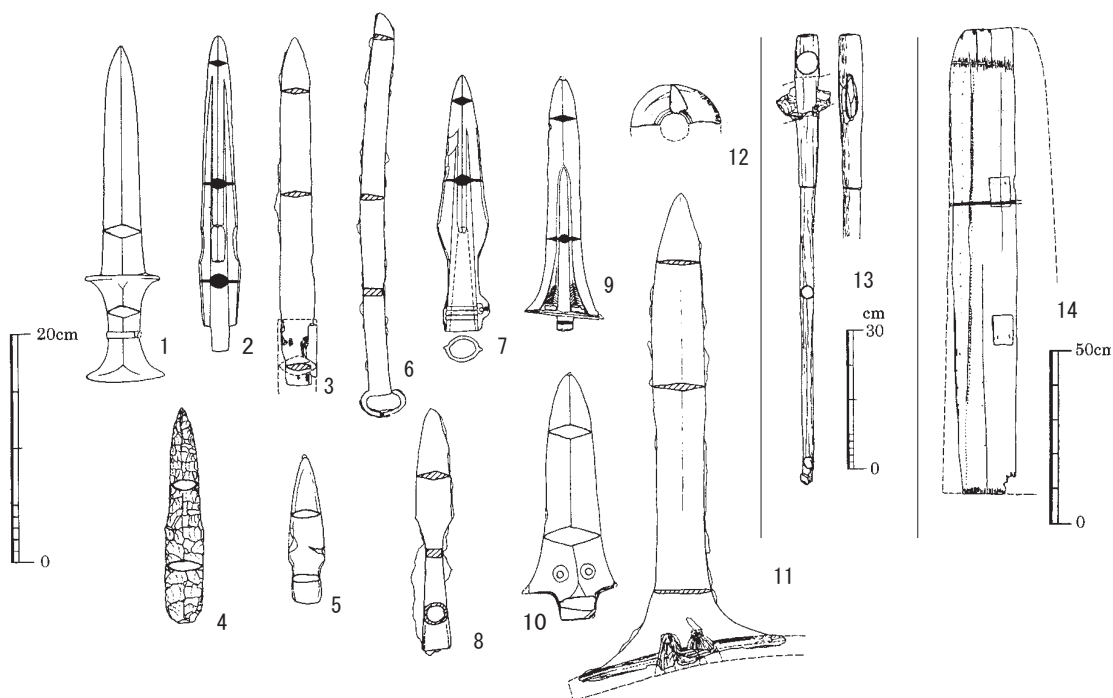


図1 弥生時代の武器（松木 2007）

II. 戦いの変遷

【縄文時代】

縄文時代から、殺傷された痕跡のある人骨は出土します。しかし、狩猟用の道具を転用した例が数例確認できるだけで、偶発的な事象にとらえることができます。

【弥生時代早期～前期前半】投射武器＋衝撃武器（短兵）（図2）

有茎式磨製石鏃と有柄式磨製石剣が朝鮮半島から北部九州へ伝来しました。副葬例や単独出土が多く基本的には儀器であったと考えられます。前期中葉までには瀬戸内、山陰、近畿へ分布域が拡大するものの出土例は希薄であり、九州以外の地域ではまだ戦いは日常的なものではなかったと言えます。

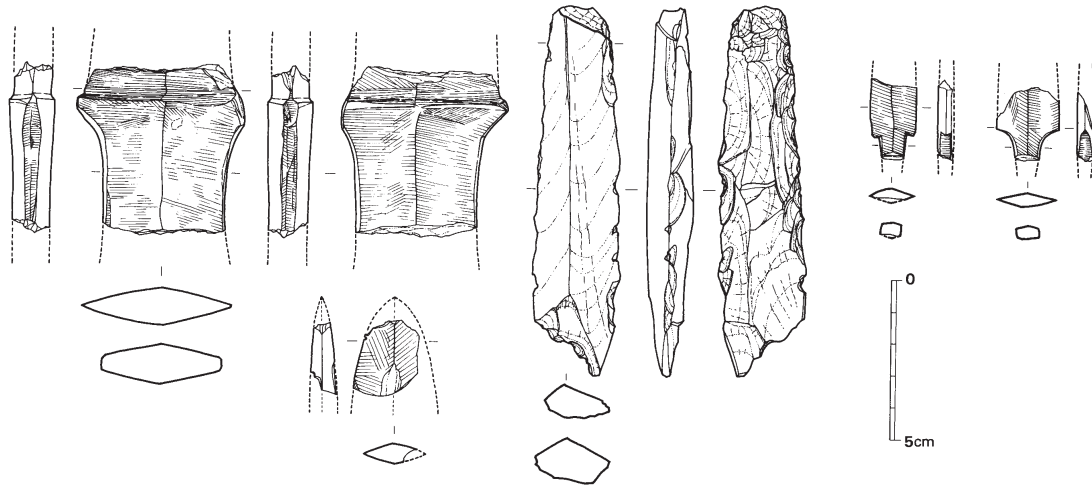


図2 弥生時代早期～前期の武器（橋口他 1984）

【弥生時代前期後半～中期】投射武器＋衝撃武器（短兵）＋衝撃武器（長兵）（図3～9）

青銅製の短剣と矛、戈が朝鮮半島から伝来します。長兵武器が使用され始め、戦いは複雑化しました。また、前期前半までは九州に偏っていた武器の分布密度が、広い範囲で普遍的に認められるようになります。分布域を拡大した武器は地域ごとに固有の組成、材質、形態をもち、共通の武器圏域内で争いがおこっていました。

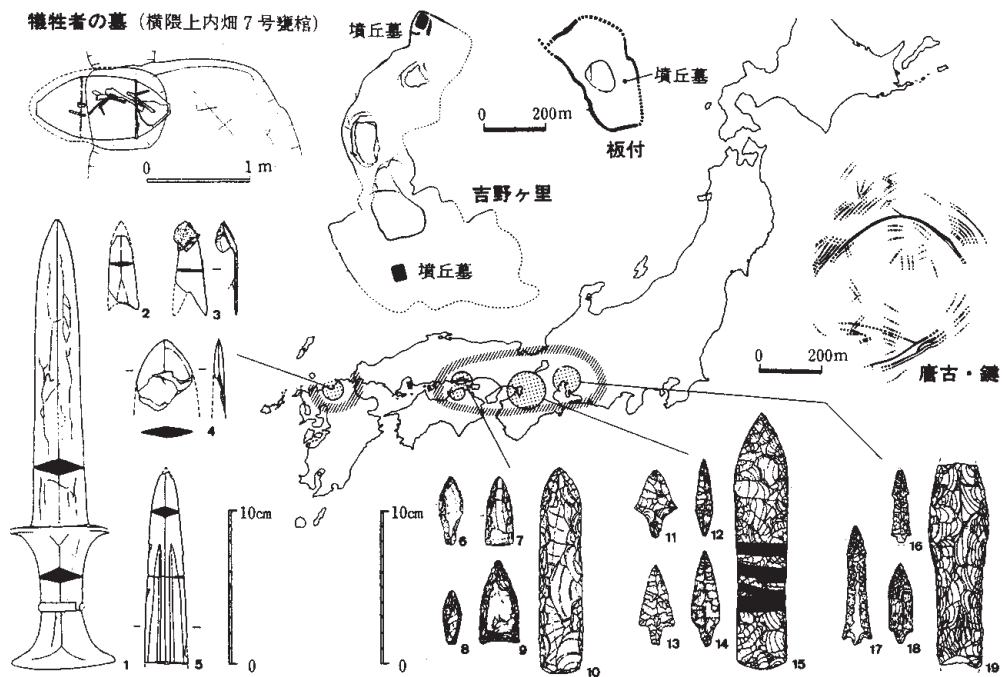


図3 弥生時代中期の武器とその発達範囲（松木 2007）

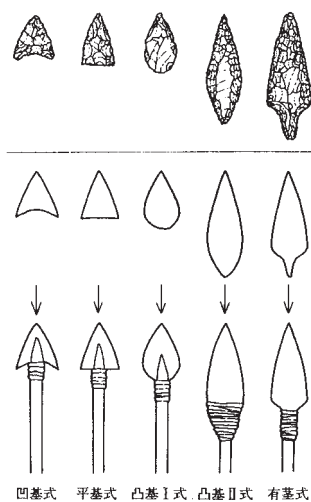


図4 石鏃分類（松木 2007）

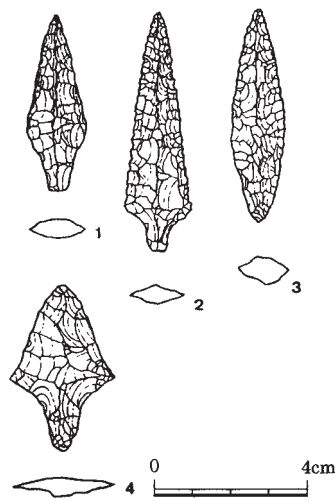


図5 近畿の大型石鏃（松木 2007）

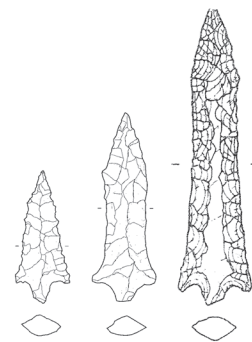


図6 伊勢湾沿岸の大型石鏃（1/2）

（愛知県教育委員会 2012）

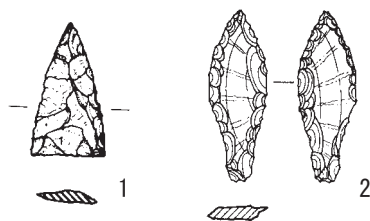


図7 岡山平野の大型石鏃（1/2）

（1：高畑他 1982、2：神原他 1977）

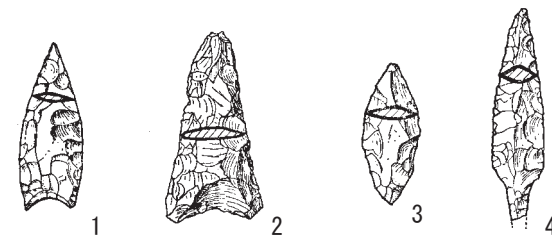


図8 讃岐平野西部の大型石鏃（1/2）

（小林行雄他 1964）

【弥生時代後期～終末期】投射武器＋衝撃武器（短兵）

中期後半に青銅製武器は祭器化し、鉄製武器が実用品として使用されるようになります。同時に、石製武器は減少しました。矛と戈が祭器に特化したことで、武器組成は単純化する一方、衝撃武器に鉄が採用され、武器の殺傷能力はさらに向上しました。また、木製の甲や置き盾の出土例が増加しており、組織的な戦闘の萌芽がみられます。

Ⅲ．列島北部と南部の戦い

列島北部（図10）

東北地方では、弥生時代を通して、明確に戦いがあったことを裏付ける武器や環濠集落、高地性集落は認められません。古墳時代終末期に武器を副葬する例が見られるようになり、8世紀前半に土塁をもった城柵が認められます。7～9世紀にかけて、

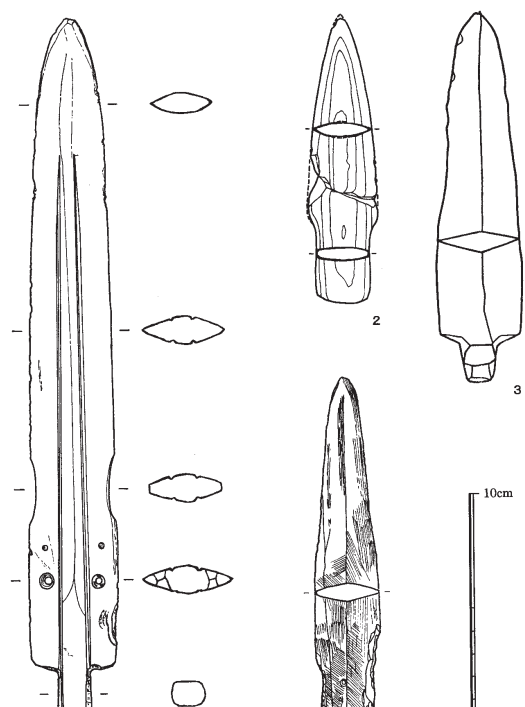


図9 弥生時代前期後半～中期の石製武器（1/4）（松木 2007）

当該地域を代表する武器として蕨手刀が使用されます。北海道でも8世紀に入ると小古墳に蕨手刀など鉄刀の武器を副葬し、15～16世紀頃にチャンと呼ばれる防御設備をそなえた施設が見られるようになります。

列島南部

列島南部の琉球では、13世紀から16世紀にかけてグスクとよばれる防御施設が見られます。グスクは聖域や儀礼の場とする考えもありますが、丘陵上や台地を土塁や石塁などで囲繞しており軍事的な役割を果たしていたと考えられます。

おわりに

- ・武器の組成は、投射武器＋衝撃武器（短兵）
→投射武器＋衝撃武器（短兵）＋衝撃武器（長兵）→投射武器＋衝撃武器（短兵）と変化します。一度複雑化した武器組成が後期以降単純化する、朝鮮半島とは異なる発展をみせます。
- ・中期後半には地域的武器様式が各地で生み出されます。各地域特有の武器は混在することはないため、近隣の集団間で戦いは繰り広げられたと考えられます。
- ・後期に入ると武器様式は類似性を高め、古墳時代に入ると地域色は解消されます。

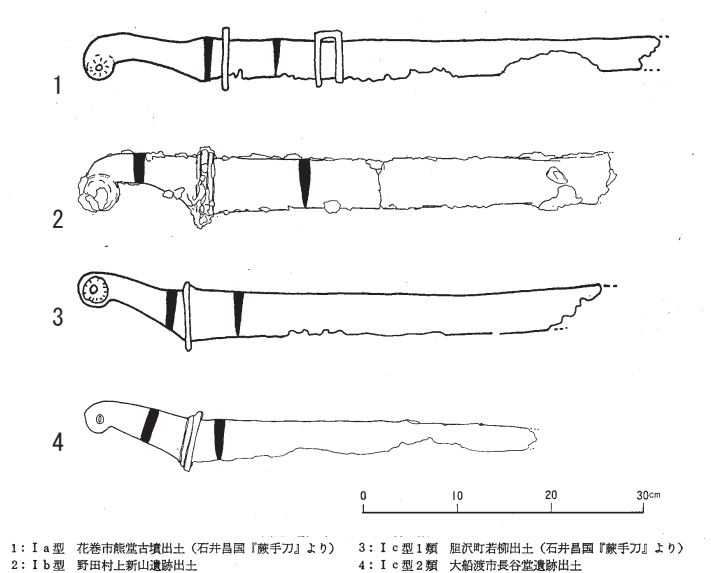


図 10 蕨手刀（高橋・赤沼 1984）

参考文献

- 愛知県教育委員会 2012『朝日遺跡 発掘調査と出土品』愛知県教育委員会
- 岡山県山陽町教育委員会（神原英朗他）1977『岡山県営山陽新住宅市街地開発事業用地内埋蔵文化財発掘調査概報』第4集（本文編）岡山県山陽町教育委員会
- 香川県三豊郡詫間町文化財保護委員会（小林行雄他）1964『紫雲出』香川県美豊郡詫間町文化財保護委員会
- 国立歴史民俗博物館 1996『倭國亂る』朝日新聞社
- 建設省岡山河川工事事務所・岡山県教育委員会（高畑知功他）1982『百間川兼基遺跡1・百間川今谷遺跡1』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 51 建設省岡山河川工事事務所・岡山県教育委員会
- 高橋信雄・赤沼英男 1984「蕨手刀からみた東北北部の古代製鉄技術」『季刊考古学』8 雄山閣出版
- 橋口達也 2007『弥生時代の戦い 戦いの実態と権力機構の生成』雄山閣
- 福岡県教育委員会（橋口達也他）1984『石崎曲り田遺跡Ⅱ 今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告』第9集 福岡県教育委員会
- 松木武彦 1998「戦争の始まりと王権の形成」『古代史の論点④ 権力と国家と戦争』小学館
- 松木武彦 2007『日本列島の戦争と初期国家形成』東京大学出版会